

2016年8月29日

札チャレラジオ通信 第33回

高橋：三角山放送をお聴きの皆さん、こんにちは。1月から始めました札チャレラジオ通信です。私は、今日のパーソナリティ NPO 法人札幌チャレンジド講習グループの高橋良雄です。よろしくお願いします。この札チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人が、IT でマザル、ハタラク、拓き合う社会をつくりたいとの思いで活動している NPO 法人、札幌チャレンジドが、毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。2016年1年間放送します。今日は第33回目の放送です。今日は私高橋と同じく講習グループのリーダー、飯村で番組を進めていきます。飯村さん、よろしくお願いします。

飯村：はい、よろしくお願いします。楽にやらせていただきますんで今日は、よろしく。

ゲスト：(笑)

高橋：で今日のゲストは札幌チャレンジドのパソコン講習を受講していただいています武田晴美さんです。こんにちは、よろしくお願いします。

武田：こんにちは。よろしくお願いします。

飯村：よろしくお願いします。

高橋：まずは武田さんの自己紹介を簡単にお願いします。

武田：はい、ええと私は障害が1種1級の障害で、車椅子に乗ってます。で、障害になったきっかけがまずリウマチから始まって今は線維筋痛症といういわゆる聞き慣れない、独特に聞いたことはある人はあるかもしれないと思うんですけど、常に痛みが伴うという疾患を抱えています。

飯村：いわゆる難病ですよ。

武田：そうですね。でも今日はすごい楽しくやらせてもらおうと思って、頑張ります。

高橋：ああ、よろしくお願いします。それでは、札チャレはいつどんなきっかけでお知りにな

なったんでしょうか。

武田：ええと、6、7年位前でないかなと、思うんですけど。その頃にちょうど痛みが激しくてもう気分を変えるためにインターネットサーフィンというんですか。

飯村：はいはい、ネットサーフィン。

武田：はい、ネットサーフィンあれを一生懸命しまして、そこで札幌チャレンジド、障害のある人にも色んな機会をとというそのホームページで知りまして。これは是非行ってみたいなああって、そやって思ったんですよ。それでお世話になることになりました。

高橋：あ、そうでしたか。

飯村：ありがとうございます。

高橋：ありがとうございます。

高橋：それでは、これまでどんな講習を受講されてましたか。

武田：ええとですね、結構いろいろ受けさせてもらって。出来の悪い生徒なんですけど。

飯村：いえいえ。

高橋：そんな。

武田：ええと、ムービーメーカーから始まってホームページビルダーとホームページのXHTMLと言うんですか、あれとかパワーポイントなどいろいろ受けさせてもらって。

飯村：まだまだいろいろですね。

武田：ええ、受けさせてもらって、楽しんでます。

高橋：ああ、そうでしたか。

武田：はい。

高橋：ほんと、いつもありがとうございます。

武田：いいえ。

飯村：ありがとうございます。

高橋：え、それで特にこれは面白かったなあとか、あと、すごい勉強になったなというような講習とかとは。

武田：ああ、やっぱりホームページですね。これは1回の講習では分ならず。またあった講習にも参加させていただいて。XHTMLのホームページもなんとか作りましたし。

飯村：あ、ご自分で。

武田：あと、ホームページビルダーがすごく簡単だなって思って。それもだいぶ作りました。だから楽しんでいます。

飯村：自分で作ってみるとまたね、感覚が違いますよね。

武田：そう、でも講習受けなかったらそんな作る気にもなれなかったし。だから、和気あいあいと教えていただけるので嬉しいです。

高橋：ええと、どんなホームページを、ご自分のホームページは作っていらっしゃるんですか。

武田：あのですね、私ブログで朗読をしまして。

飯村：なるほど。

武田：それでそのブログに上げた朗読の置き場っていうか倉庫っていうか「はるの朗読の部屋」というブログ、あの、ホームページを立ち上げてそこでいろいろ今までやってきた朗読を発表してます。

飯村：なるほどね。

高橋：そうでしたか。

武田：発表の場っていうのかな。違うかな。

飯村：なんかあの、声の感じがね、これはなんかあるなど。

高橋：そうですね。

武田：なんかある。

飯村：「朗読者だな」という感じ。

高橋：あ、朗読ですね、なるほどそうでしたか。いやあ、すみませんぼくまだそのホームページ見てませんでした。

武田：ものすごいページ数なので。

飯村：あ、じゃあ是非ちょっと覗いてみよう。

高橋：そうでしたか。へえ、後は他にはなんか面白いとあってありましたか。

武田：後は自己流であの、ブログを立ち上げて。でもいろいろチャレンジドさんで習ったそういう、細かな操作とかそういうのが結構ブログにも生きてきて。それで結構ブログは、まず始めた時は、1年間は毎日必ずやろうという決心をしまして。で、痛みに耐えながらも1年間上げ続けて。そうしたら最初は、すごく寂しかったんだけど、だんだん人が来てくれるようになって。おかげさまでなんかブログのランキングでも1位取れたり。部門ですけど。

飯村：へえ、すごいですね。

武田：なんかそんなんですらそれで何年か過ぎたら今はもうすっかりご無沙汰になってしまっ

飯村：それはちゃんとしないと、書かないと。

武田：ブログは時々。下手したら1週間に1回とか。そんな感じで。写真でっかく使って字を小さくとかっていう、いいかげんなブログを立ち上げてます。

高橋：いやいや、それやってるだけすごいです。

武田：そうですか。

高橋：ええ。

武田：あの、一応宣伝さしてもらおうと、「ゆっくり生きる」というタイトルなんです、ブログは。

飯村：ゆっくり生きる。

高橋：あ、ゆっくり生きるね。

飯村：検索するとすれば、どういうふうにすれば。

武田：検索するんだったら「ゆっくり生きる」で検索出てきます。

飯村：あ、じゃあ「ゆっくり生きる」ですね。

武田：うん。

高橋：生きるが漢字。

武田：生きるが漢字です。

高橋：分かりました。

武田：で、「なるようにしかならない」ということを、補足でつけてます。焦ったって仕方がないって。

飯村：でも、なんかもっとそれ以上に積極的になんとかなっているような気がするんですけどね。(笑)

武田：ならありがたいんですけど。(笑)

高橋：やあ、なかなかすごいですね。

飯村：なんか楽しそうだよ。

高橋：ええ。

武田：うん、おかげさまで楽しいです。お友達がたくさんできて。

高橋：ああ、そうなんですか。

飯村：でも、そういう出会いは良いですよ。いろんなね、ネットでいろんな被害もあるけれども。

武田：うん、そういう被害は全くないですね。

飯村：それが本来のね、楽しさでよろしいですよ。

武田：で、10月にも神戸のネットで知り合った友達が北海道に遊びに来てくれると、私のところに。で、すごい今、それが楽しみです。

飯村：あ、ネットやらなければ出会えなかったですよ。

武田：出会えなかったですよ、神戸の方なんてね。

飯村：それはね、もうネットの正しいあり方ですね。

高橋：そうですね、うん。そうか、それじゃあ、かなり活用されているということですね。

武田：活用はしていますね。

飯村：そうなんだよね。

高橋：ぼくはあんまり活用してないもんですから。(笑)

飯村：それはいけないな。

武田：いや、それもこれも札チャレさんのおかげですよ、講習の。

高橋：やあ、お役に立てているのは良かったです。ええと。

飯村：それで？良雄さん、次は？

高橋：え、次ですか。次がなかなかね、難しいですね。もうこの辺にきているので、そうですね。もうリクエストにいっちゃってよろしいでしょうかね。

飯村：何を許可をとっているんだよ。(笑)

高橋：なんせ私今日MCが初めてなものでして、非常に緊張しております。

飯村：まだもうちょっと時間大丈夫ですか、時間。

高橋：ええと時間的には、もうちょっとあるんです。

飯村：せっかくですからね、まあ、先に先ほどのね、ご自身の難病について、あまり知らない方がいらっしゃると思うんだよね。

武田：そうですね。

飯村：もうちょっとだけやっぱりこういう機会ですから、こういう機会がないとたぶん耳にする機会がない方もいらっしゃると思うので。ちょっとだけもう少し、どんな症状なのか。

武田：ちょうど血管に細かいガラスが流れる感じ、っていったらいいのかな。私の場合は特に、末梢神経、手足に来ますね。

飯村：見かけはいかにも痛そうにしているとか、そんな感じには見受けられないですよ。

武田：だからあの精神病院にかかって。

飯村：神経科に。

武田：え、ああ、精神安定剤と睡眠導入剤をもらって日中も精神安定剤と眠剤とで。今日は実は飲まないで来ました。寝ちゃったら困るので。

飯村：ああ。

武田：いつもお昼寝している時間なので。

高橋：あ、そうでしたか。

飯村：もう一度その病気の名前だけ、もう一度。

武田：繊維筋痛症です。

飯村：どうもありがとうございます。まあ、ではとりあえずじゃあ難病の話はここまでとして。

高橋：あ、では。

飯村：良雄さん、しっかりお願いしますよ。

高橋：では、リクエスト曲をいただいております。ええと、さだまさしさんの「道化師のソネット」。

武田：はい。

高橋：お願いします。

高橋：こちらリクエスト曲、お送りしました。それでは引き続き武田さんにお聞きしたいと思います。

武田：札チャレ講習の進み方ですとか、講師の印象とかはどうでしたでしょうか。

武田：講師の先生とは皆素敵ですごく親切に教えてくれるので、でもさすがにやっぱり詳しいなと感心させられますね。

飯村：それでお金もらってますからね。(笑)

武田：そして人数も少人数で8人で講習を受けるので、だんだんこう何回か行くうちに常連さん、常連さんたらおかしいんですけど、お友達になって。

飯村：顔なじみですよ。

武田：うん、まるでほんとになんか昔からの仲良しみたいな感じで、うん。で、わかんない時は、休み時間にお互いに教えあってみたり、そんな感じなので。で、講師の先生の他にサブの講師の先生がついてくださって。

高橋：あ、そうですね。サポートの方ですね。

武田：ええ、だから8人でも4人ずつで習ってるようなそんな感じがあって、すごくこう質問もしやすいしどんどん先に行ってしまうので、置いてかれないで、だから是非皆さんにも勧めたいなあって。パソコン習いたいなって思う人には、うん、そういうところの一步から。

高橋：ええ、サポートの方がいると結構ね。

飯村：良雄さん、あれだ。ついでだからさ、逆に講師の先生の紹介してもらおうか。

高橋：ああ、そうですね。

武田：講師の先生。

飯村：どれ、今。

武田：あ、うんと私は、「かず先生、かず先生」って呼んでるんですけどあら、名字は。

高橋：前田先生ですね。

武田：前田かず先生。

飯村：どうですか、やつは。

武田：いいですよ、うん。

飯村：やっぱり結構かなり詳しいでしょ。

武田：詳しい。相当詳しいですからホームページの時なんかぐちゃぐちゃにしたのを直してくれたり。

飯村：うん、やっぱりああやって長くね講師続けるにはもういろんなこと知らないといけな
いからね。いろんなね、生徒さんいらっしゃるからね。それに対して答えられないといけな
いんでね。

高橋：すごいですね。

飯村：でしょ良雄さん。

高橋：はい、ぼくの方がちょっと答えられてないので。

武田：結構年配の方もいらしてる。

飯村：そうですね、ほんとにね、縁のなさそうな人に来てほしいですね、むしろね。もちろ
んね、武田さんのように何度も来てくださる人もそうないけれどもね、うん。

武田：だからすごくいいなって。雰囲気も良いし。この前ちょっとそんな仲良しで、飯島さ
ん、飯村さんも高橋さんも参加してもらって、お茶コンみたいな、おやつをいただきに。

高橋：そうでしたね。

飯村：ああいうのがあって、楽しいですよ。

武田：そうですね。

高橋：そうですね。さっきほとんどお聞きしたような感じだけど、普段生活の中でパソコン
をどのように利用しているのかっていうのは、まあさっきのブログの話でしたよね。

飯村：さっき聞いたようなこと言ってますね。

高橋：言いましたね。聞きましたね。

武田：いや、でも宣伝さしてください。少しでもアクセスがあると良いです。

飯村：で、本人も頑張らなきゃいけないからね。

武田：「ゆっくり生きる」というタイトルで検索してくださると、私のうんと、真ん中ら辺かな。Googleだとトップ辺りに出てくるかな。

高橋：それは是非。

武田：そこでいってみてください。

飯村：はい、「ゆっくり生きる」ですね、はい。焦ってもしょうがないって書いてますので。

高橋：分かりました。じゃあ、皆さん是非検索して見てみてください。

武田：うわあ、嬉しい。

高橋：あとそうですね、あとタブレットとかスマホですとか、パソコン以外にこれからやってみたいなとか思うことありますか。

武田：タブレットがちょっと気になってるんだけど、ちょうど。

飯村：そういう講習ね、かず先生に。

武田：うん、そうですね。

飯村：やってちょうだいよと言えばね、うん。

武田：ただし、タブレットを持っていないんですよ。

飯村：いや、なくてもあの、札チャレにありますから。

武田：あ、そうなんですネ。

飯村：ああ、あげないけどあの。

武田：くれないんですか。ああ、そうですか。もらえるんなら嬉しいですけどもね。

飯村：そうはいかない。

武田：そうはいかない。

飯村：まだ、元取ってないですからね。

武田：元取ってない。

高橋：そうですね、うんそうか。

飯村：そうそう。

高橋：武田さんは札チャレの講習しか受けたことがないんですよ。

武田：受けたことないんです。

高橋：二十四軒の方は受けてませんね。

飯村：うん、講師の方はね。

武田：うん、ちょっと東区なので。

飯村：あ、そうですね。

武田：東区遠いので。

高橋：遠いですよね。

飯村：あそこはね、あのどっちかというと初心者向けだから。武田さんはね、もう初心者超えちゃっているから。

武田：そうですか。

飯村：いや、そういうふうにしておきましょう。

武田：おだてて、後でなんかっていうことはないですか。

飯村：いや、もちろんそれは考えてません。

高橋：いや、タブレットとかがあったので。

飯村：いや、ほんとにいいふうに使って楽しくされてて良いと思いますね。是非、リクエストください。

武田：はい、分かりました。

高橋：そうですね、じゃあまた重なっちゃうんですけど、これからの札チャレ講習でこれ教えてほしいっていうのは。どんな感じの。

飯村：ついさっきの話でしたね。

高橋：そうですね、ついさっきした話になっちゃうんですけど。なんか特に他になんかやってほしいっていうのは。

武田：ええと、動画をやりたいんですよね。

飯村：動画ね。

武田：アニメーションが作りたい。

飯村：おお、ほうほう。

武田：なかなか今のムービーメーカーだと作りづらいんですよね。で、昔のXPの時だと、意外と作れたんですよ。

飯村：あれも、やりだすとはまりますよね。

武田：あ、はまっちゃいます。

飯村：ですよ。もちろん札幌チャレンジにリクエストしていただいて、そしてなおかつね是非お仲間に。

武田：お仲間に。

飯村：うん、やろうよやろうよ、私やりたいよ、と。そうすればたぶん前田先生も、しょうがねえかと。やったろか、というふうに考えてくださるはずですから。

武田：やあ、なんかそんな感じです。やりたいやりたいって皆して言って。

飯村：ですね、たきつけてくださいね。

武田：はい、たきつけます。

高橋：そうですね、そうか前田先生以外では。

武田：ええと、ずっと昔なんですけどめぐみ先生。

飯村：高橋めぐみですね。

武田：うん。

飯村：彼女が札幌チャレンジドのチャレンジド講師の第1号かな。

武田：ああ、そうなんですか。

飯村：まあ、いわゆる自分自身が障害を持った講師。その第1号でしたね。

武田：ああ、そうですか。

高橋：そうか、これだけ詳しくなられるともしかしたら講師もそのうちやられてもよいような感じですね。

飯村：うん、これは周りの圧力次第でしょうね。

高橋：いや、かなり詳しくなられて。

飯村：そうですね。

高橋：僕が詳しくないだけ。

飯村：あの、得たものをおすそ分けしてね。

高橋：やあ、そうか、そうですね。なかなかありがとうございますっていう感じです。

武田：結構頑張ってます。

飯村：そのようにやっていただければ、嬉しいですよ。我々もね。

高橋：はい、なんかね。ほんとにね、我々仕事冥利に尽きるという感じでございますが。はい、まだ結構時間があるようなので。

武田：あの、札幌チャレンジドは、私、ご挨拶が皆さんきちっとできてるなって思うんですよ。

飯村：あ、そうですか。

武田：感じたところで、いつも目の見えない方も雰囲気でちゃんと「おはようございます」と言うと、「おはようございます」で言うてくださるし。とにかく中に入っていくと、まあ高橋さんがメインなんですけど一番目について。「おはようございます」で言うと「おはようございます」で笑って言うてくださるのが、すごく嬉しい。

高橋：あ、そうですか。

武田：あと、皆が座って挨拶しあっている。素敵だなんて思います。

飯村：ほんと、ありがたいですね。挨拶は、やっぱり楽しさの始まりですからね。

武田：そう、やっぱりルールの一つ。やっぱり挨拶って大事なんだなって思います。

高橋：そうですね。

飯村：改めて、言うておいて。

高橋：はい。私も挨拶は欠かさないように、はい、いたします。ええ、それでは今日は札幌

チャレンジドの講習を受講いただいている方をゲストにお送りいたしました。武田さん、ありがとうございました。

武田：はい、ありがとうございました。こちらこそお世話になりました。

飯村：はい、それで。

高橋：それでは、また来週お送りいたしますので、よろしくお願いします。それではさようなら。

飯村：はい、さようなら。

武田：さようなら。